佐谷観音谷経筒

出土地：伝須恵町大字佐谷出土
時　期：天治２年（1125）
所　蔵：東京国立博物館

偶然の発見

今から約 100 年前の明治 43 年（1910）の３月、佐谷建正寺の裏山が土砂崩れを起こしました。その時、偶然にも３点の経筒が見つかり、現在は東京国立博物館の所蔵となっています（５点とも言われています）。経筒は銅製のものが２点（輪積二段、輪積三段各１点）、陶製のものが１点あります。現在建正寺観音堂入口脇には石製の経筒の外函（そとばこ）が置かれています。経緯は定かではありませんが、明治期に発見された可能性があります。

【佐谷観音谷経筒
（東京国立博物館所蔵）】

宋人の関与

天治二年（1125）銘の経筒には「宋人　馮榮（ひょうえい）」という人名が線刻されています。宋人の銘文をもつ経筒は、北部九州から出土する経筒に類例があります。陶製経筒の中には中国から輸入した経筒専用の容器があります。大陸では出土例がなく、日本から注文を受けて生産したものと考えられています。当時、博多は日宋貿易で栄えており、この経筒の輸入には博多に滞在していた宋人の関与が考えられます。「馮榮」も日宋貿易に携わった商人の一人と思われます。

国内唯一の資料

宋人名の銘文は底部に書かれる例が多く、蓋の内面や筒身の外面に書かれる場合があります。ほとんどの経筒は墨書によって銘が書かれていますが、佐谷の資料は線刻です。線刻の資料は他に類例がなく、現時点で国内唯一の資料です。